

キュウリ曲り果に関する研究 第2報品種と曲り果の発生について

片井政一・小西薫・佐々木善隆

促成栽培用キュウリ 25 品種と系統別代表キュウリ 18 品種を用い曲り果の発生率,発生様相,および子房,果実の素質と曲り果の関係について検討した結果は次のとおりである。

1. 曲り果の発生は品種および系統によりかなり差異が認められた。すなわち,促成栽培用品種は春姫,福交1号,長交4号,春風節成,ベストグリーンが発生多く,七尾房成,ハウスみどり,松のみどり,ハウス落合,宇治新聖1号は少ない。また発生の多い系統は雑種系,北支系で青節系,ピクル系は少ない。
2. 曲り果の発生様相は(A)山型,(B)鍋底型,(C)減少型,(D)増加型,(E)波型の5型に分類され,促成栽培用品種はB型,C型に多く属し系統別代表品種はD型に属する品種が多い。
3. 曲り果は果実の長さに関連し,長い果実ほど曲り果が多い傾向を認めた。しかし,同一果長では開花時の子房の長さに比較して収穫果が長くなるにしたがって発生が多い結果を得た。